

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 江津市地域公共交通会議 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



江津市の概要

- ・平成16年10月に1市1町が合併
- ・人口 22,959人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 268.24km²

交通会議の構成員

江津市 島根県 石見交通(株) (有)浜田ハイヤー K-サポート(株) 日本交通(株) (有)浅利タクシー 桜江タクシー 国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所 島根県浜田県土整備事務所 中国運輸局島根運輸支局 島根県旅客自動車協会 島根県交通運輸産業労働組合協議会 江津警察署 住民代表 商工会議所 商工会 社会福祉協議会 JR西日本 学識経験者

概 要

・公共交通の現況

鉄道は、海岸線を東西に結ぶJR山陰本線と市の中央部を南北に流れる江の川に沿ってJR三江線が運行していたが、平成30年3月31日をもって三江線は廃止された。4路線バスは、石見交通が、国道9号や江の川沿いの国道261号など、市内主要な幹線道路で16系統を運行している。また、南側の中山間地域を中心として市町村運営有償運送によって14系統を運行している。

・公共交通の問題点や課題

中山間地域の公共交通不便地域の解消のため、平成21年度から地域間交通ネットワークへ接続するデマンド型コミュニティバスの3系統の実証運行を行い、その後本格運行へ移行している。また、平成27年3月に国の認定を受けた「江津市中心市街地活性化基本計画」を進める中で、コンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりの必要性がさらに増しており、中山間地域の生活を維持する最低限の交通手段を確保し、加えて、都市機能の集約を進めている中心市街地に乗り入れる地域間幹線系統とフィーダー系統を組み合わせることによって交通ネットワークを構築することとしている。

交通会議の主な取り組み

- ・利用者ニーズに合わせたバス路線の検討
- ・交通不便地域におけるフィーダー交通の検討
- ・利用促進策の検討

交通会議における検討

交通会議の開催状況 2回開催

- ・第1回公共交通会議(1月:書面) ①事業評価について
- ・第2回公共交通会議(6月:書面) ①地域内フィーダー系統確保維持計画について

江津市地域公共交通会議 事業の評価

定量的な目標・効果

(目標)

松川波積線…R2年度実績を維持し、利用者数を1運行当たり4.0人以上にする。

有福千田線…利用者数を1運行当たり2.0人以上にする。

川平線 …R2年度実績を維持し、利用者数を1運行当たり3.5人以上にする。

鹿賀線、江津川平線…利用者数を1運行当たり2.0人以上にする。

(効果)

生活バスの運行により、公共交通を利用した移動可能性を拡大し、交通不便地域の縮小、解消に繋がる。

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

・利用頻度の低い有福千田線について、この路線による需要が極めて少なくなったことを踏まえ、運行のあり方について地元との協議を実施した。

実施した利用促進策

・市内生活交通のバスマップを作成し、市内全世帯に配布した。鉄道からバスへ交通手段の転換がスムーズに進むよう努めた。
・地域コミュニティ組織との意見交換を実施し、生活バスの利用促進を呼びかけた。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

・利用頻度の低い有福千田線について、この路線による需要が極めて少なくなったことを踏まえ、運行のあり方について地元との協議を実施した。

地域住民の意見の反映

・運行事業者への聞き取りを行った。
・公共交通会議に住民、利用者の代表として自治会や婦人会から出席を求めた。
・住民との意見交換を踏まえ、江津川平線と鹿賀線のダイヤを変更した。

江津市地域公共交通会議 事業の評価

事業実施の適切性

- ①松川波積線：計画どおり事業は適切に実施された。
- ②有福千田線：デマンドの予約が年間を通してなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった。
- ③川平線：計画どおり事業は適切に実施された。
- ④鹿賀線：計画どおり事業は適切に実施された。
- ⑤江津川平線：計画どおり事業は適切に実施された。

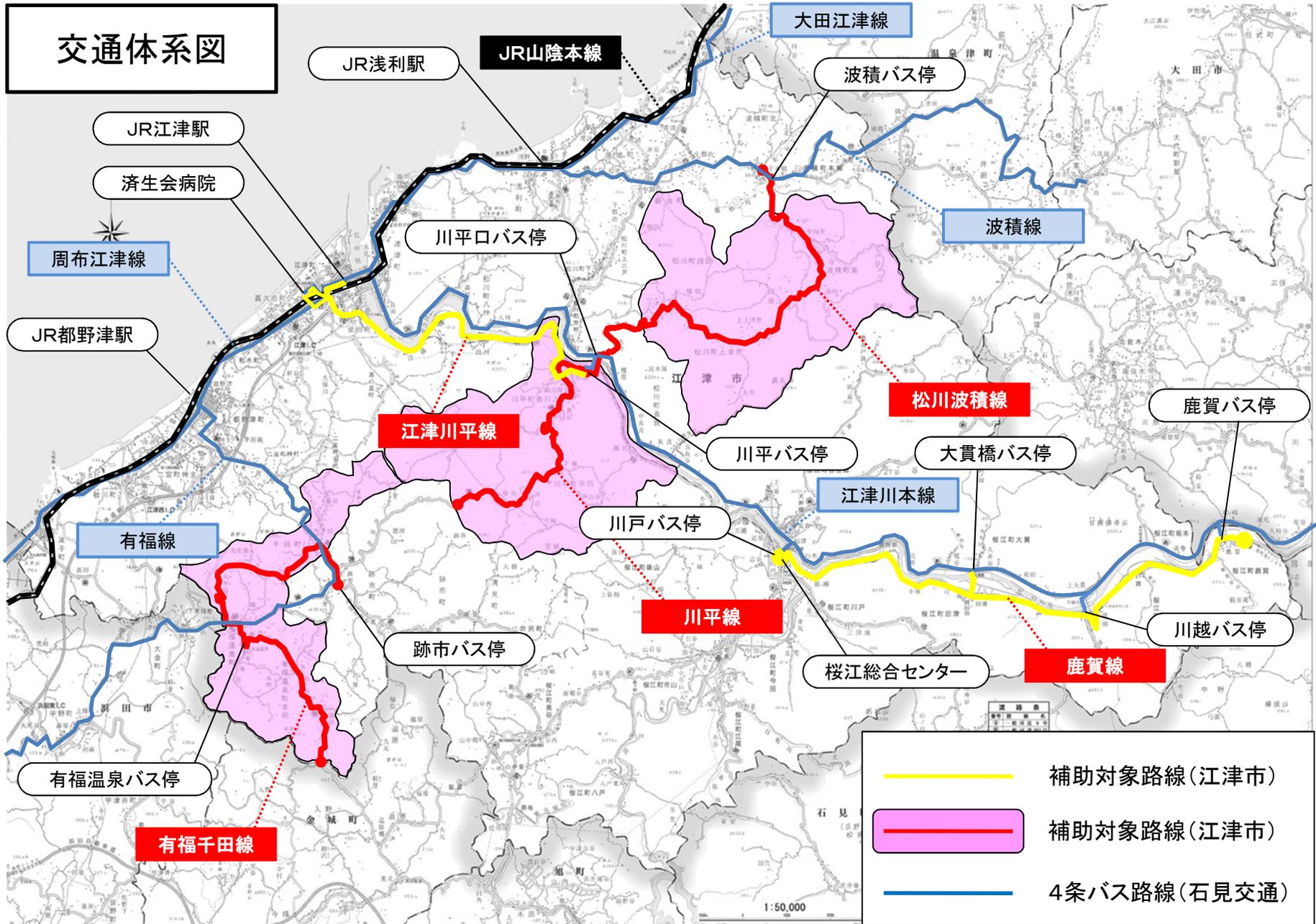
目標・効果達成状況

- ①松川波積線：（目標）利用者数を1運行当たり4.0人以上に対して、6.4人であった。
（効果）高齢者をはじめとする住民の日常の移動手段を確保し、交通不便地域を解消することができた。
- ②有福千田線：（目標）目標の利用者数を1運行当たり2.0人以上に対して、年度を通して利用がなかった。
（効果）地域の交通需要を満たしていると言えない状況である。
- ③川平線：（目標）利用者数を1運行当たり3.5人以上に対して、2.8人であった。
（効果）高齢者をはじめとする住民の日常の移動手段を確保し、交通不便地域を解消することができた。
- ④鹿賀線：（目標）利用者数を1運行当たり2.0人以上に対して、沿線人口の減少などの影響を受け、0.6人であった。
（効果）高齢者をはじめとする住民の日常の移動手段を確保し、交通不便地域を解消することができた。
- ⑤江津川平線：（目標）利用者数を1運行当たり2.0人以上に対して、3.9人であった。
（効果）高齢者をはじめとする住民の日常の移動手段を確保し、交通不便地域を解消することができた。

事業の今後の改善点

- ①松川波積線：住民と連携しながら、目標数の維持に努める。
- ②有福千田線：地元との協議を進め、タクシー活用などを検討しながら見直していく。
- ③川平線：住民と連携しながら、目標数の維持に努める。
- ④鹿賀線：集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、住民との連携に一層努めていく。
- ⑤江津川平線：住民と連携しながら、目標数の維持に努める。

交通体系図



JR浅利駅

JR山陰本線

大田江津線

波積バス停

JR江津駅

済生会病院

川平口バス停

波積線

周布江津線

JR都野津駅

江津川平線

松川波積線

鹿賀バス停

川平バス停

大貫橋バス停

有福線

江津川本線

川戸バス停

川越バス停

川平線

跡市バス停

桜江総合センター

鹿賀線

有福温泉バス停

有福千田線

- 補助対象路線(江津市)
- 補助対象路線(江津市)
- 4条バス路線(石見交通)

1:50,000

運行系統図 別紙

系統名 松川波積線

- ・運行形態 市町村運営有償運送(路線不定期型)
- ・運行日・便数 川平駅-波積診療所(月・木)8便/日
- ・運賃 200円/回

系統名 有福千田線

- ・運行形態 市町村運営有償運送(路線不定期型)
- ・運行日・便数 (火・木)2便/日
- ・運賃 200円/回

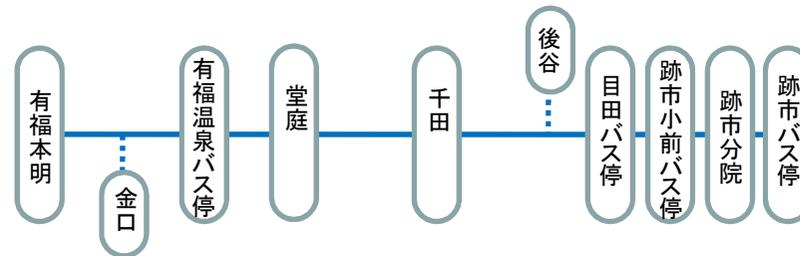
系統名 川平線

- ・運行形態 市町村運営有償運送(路線不定期型)
- ・運行日・便数 (火・金)4便/日
- ・運賃 200円/回

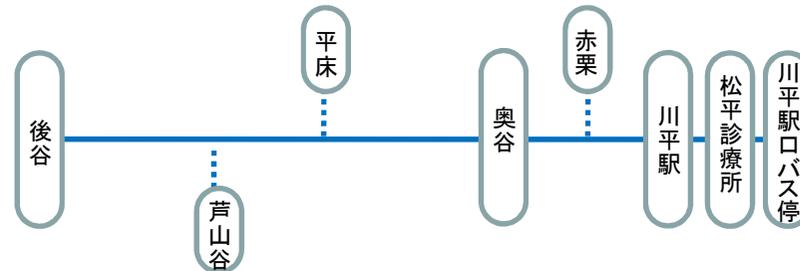
松川波積線



有福千田線



川平線



運行系統図 別紙

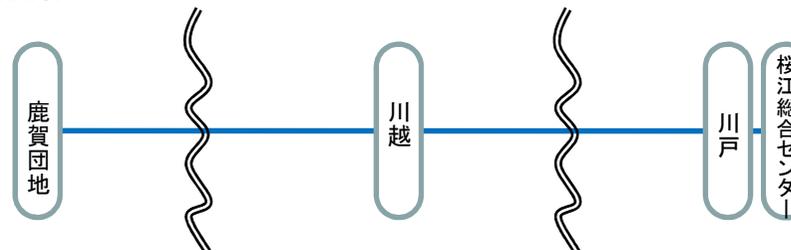
系統名 鹿賀線

- ・運行形態 市町村運営有償運送(路線定期型)
- ・運行日・便数 (月・木)4便/日
- ・運賃 160円～490円/回

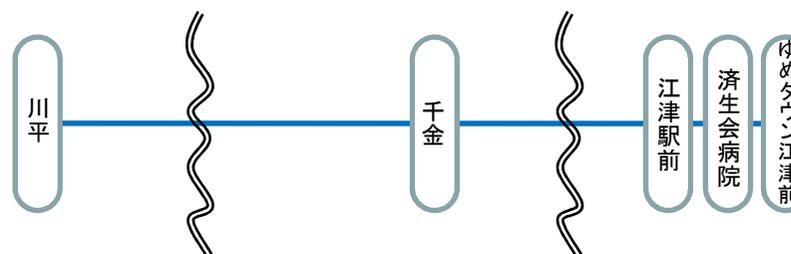
系統名 江津川平線

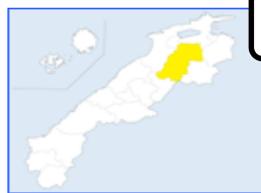
- ・運行形態 市町村運営有償運送(路線定期型)
- ・運行日・便数 (火・水・金)4便/日
- ・運賃 160円～450円/回

鹿賀線



江津川平線





令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 雲南市地域公共交通協議会 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要

雲南市の概要

- ・平成16年11月に5町1村が合併
- ・人口 36,007人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 553.18km²

協議会の構成員

雲南市、島根県、島根運輸支局、旅客自動車協会、一畑バス(株)、中国JRバス(株)、JR西日本、交通運輸産業労働組合、社会福祉協議会、中国地方整備局、市教育委員会、地域代表、利用者代表

概要

雲南市は、島根県の東部に位置し、松江市、出雲市に隣接し、南部は広島県に接している。市の南部は中国山地に至り、北部は出雲平野に続いていることから、標高差が大きくなっている。市内には、斐伊川本流とその他支流が流れている。加茂町から大東町、木次町、三刀屋町にかけて平野部が広がっているが、吉田町、掛合町では中国山地に至る広範な山間部を形成している。雲南市の公共交通状況は、山陰と山陽を結ぶ国道54号が雲南市内を南北に貫き、国道314号が三刀屋町から南東に伸びている。国道54号により南北の幹線道路軸は充実しているが、現在県道・町道などによって結ばれている東西の幹線道路軸が不足している。また、雲南市中心部を南北に貫く中国横断自動車道尾道松江線の整備が進んでおり、平成24年3月に三刀屋～吉田インターチェンジ間が開通し、平成25年4月には広島県三次市まで開通した。今後は高速バス路線が高速道路に移行することにより、広島県域への移動が短時間になり速達性が高まる一方で、木次及び吉田高速バス停へのアクセスの確保を図ることによる利便性の向上が期待されている。

雲南市内の公共交通機関としては、JR木次線とバス交通がある。JR木次線は大東町・加茂町・木次町を經由している。バス交通については、平成25年4月より松江・出雲～広島間の高速バスが、国道54号から中国横断自動車道尾道松江線に路線変更し運行されている。また、大東町松江市間は一畑バスが、三刀屋町出雲市間は民間委託バスがそれぞれ運行している。近年、民間バス路線の廃止・撤退等が相次いでいるため、市民バスを運行して交通手段を確保しており、幹線となる広域バス「吉田大東線」の運行や旧町時代の各町村営バス路線を引き継いだ地域バス、吉田町での自家用自動車によるデマンド運行や、市内各町で運行しているデマンド型乗合タクシー「だんだんタクシー」など、工夫を凝らしたバス・デマンドタクシー等の運行を行っている。

協議会の主な取り組み

- ・効果的・効率的な地域内交通(網形成計画)
- ・公共交通の役割分担の明確化(JR競合回避)
- ・JR駅との接続改善(市民バスのダイヤ改正)
- ・利用促進と利便性向上(公共結節点・情報提供の充実)
- ・GTFSデータ整備(ダイヤ・経路検索サービスの充実)

協議会における検討

- 【令和2年度】
 - 書面審議(7月16日)生活交通ネットワーク計画
 - 第2回(10月29日)雲南市地域公共交通再編実施計画(方針)協議
 - 第3回(12月24日)地域公共交通確保維持改善事業(二次評価)雲南市地域公共交通再編実施計画(原案)協議
 - 第4回(2月22日)市民バス等ダイヤ改正
 - 書面審議(3月23日)雲南市地域公共交通再編実施計画(成案)協議
- 【令和3年度】
 - 書面審議(6月24日)生活交通ネットワーク計画

定量的な目標・効果

- 【目標】
 - ・1運行当たり利用者数を1.5人以上とする。
 - ・住民満足度61%以上とする。
- 【効果】
 - ・当該路線を維持することにより、日常生活における移動手段及び地域間交通ネットワークとの接続による中心市街地等への移動手段を確保する。

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

・「地域組織との連携し運行内容の改善に努め、利用促進を図る」とした点については、住民組織を通じ利用促進と更なる運行内容の周知を行った。

実施した利用促進策

- ・路線図を記載した市民バス時刻表を市内全戸に配布した。
- ・住民組織を通じて利用状況を周知し、利用促進への協力要請を行った。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

・「持続可能な公共交通網が実現されることを期待する」とされた点については、自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。

地域住民の意見の反映

- ・地域住民代表が参画する雲南市地域公共交通協議会、市民アンケート、関係団体からの聞き取り等により意見の把握と反映に努めた。

事業実施の適切性

- ・吉田区域デマンドバス:計画どおり実施されている。時刻表の配布等の周知活動により新規の利用者は増えているが、利用者は増加した。
- ・田井区域デマンドバス:計画どおり実施されている。時刻表の配布等の周知活動により新規の利用者は増え、少子高齢化による人口減の影響もあり、全体として利用者は減少した。

目標・効果達成状況

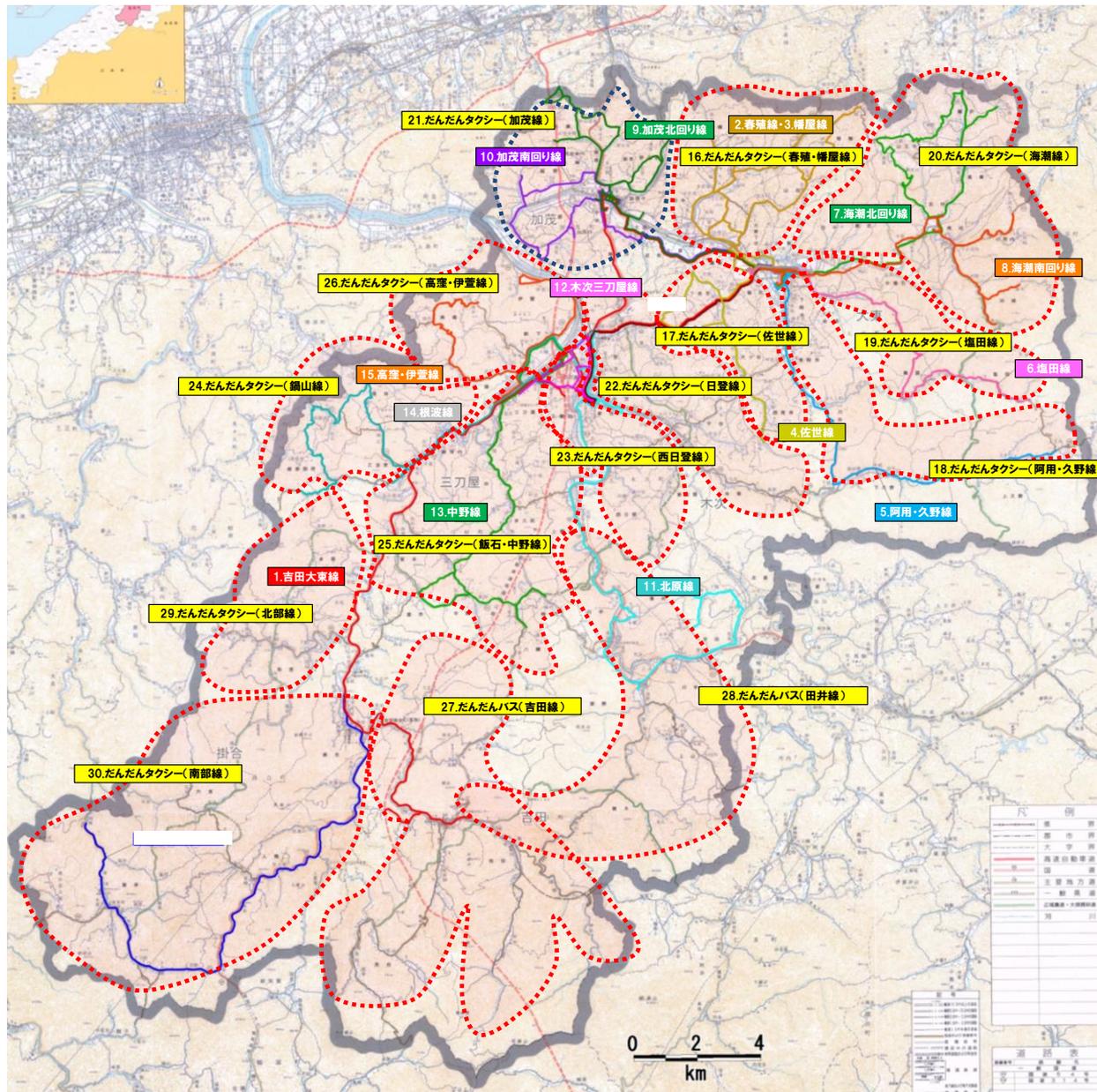
- ・吉田区域デマンドバス:(目標)1運行当たりの利用者数は3.8人で、目標1.5人以上を達成した。
- ・田井区域デマンドバス:(目標)1運行当たりの利用者数は5.4人で、目標1.5人以上を達成した。
- ・共通(吉田区域・田井区域) : (目標)アンケートによる住民満足度は51.7%で目標値61%に届かなかった。
:(効果)日常生活における移動及び中心市街地への移動手段を確保できた。

事業の今後の改善点

- ・共通(吉田区域・田井区域):住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図る。

雲南市民バス路線図(市民バス、デマンド)

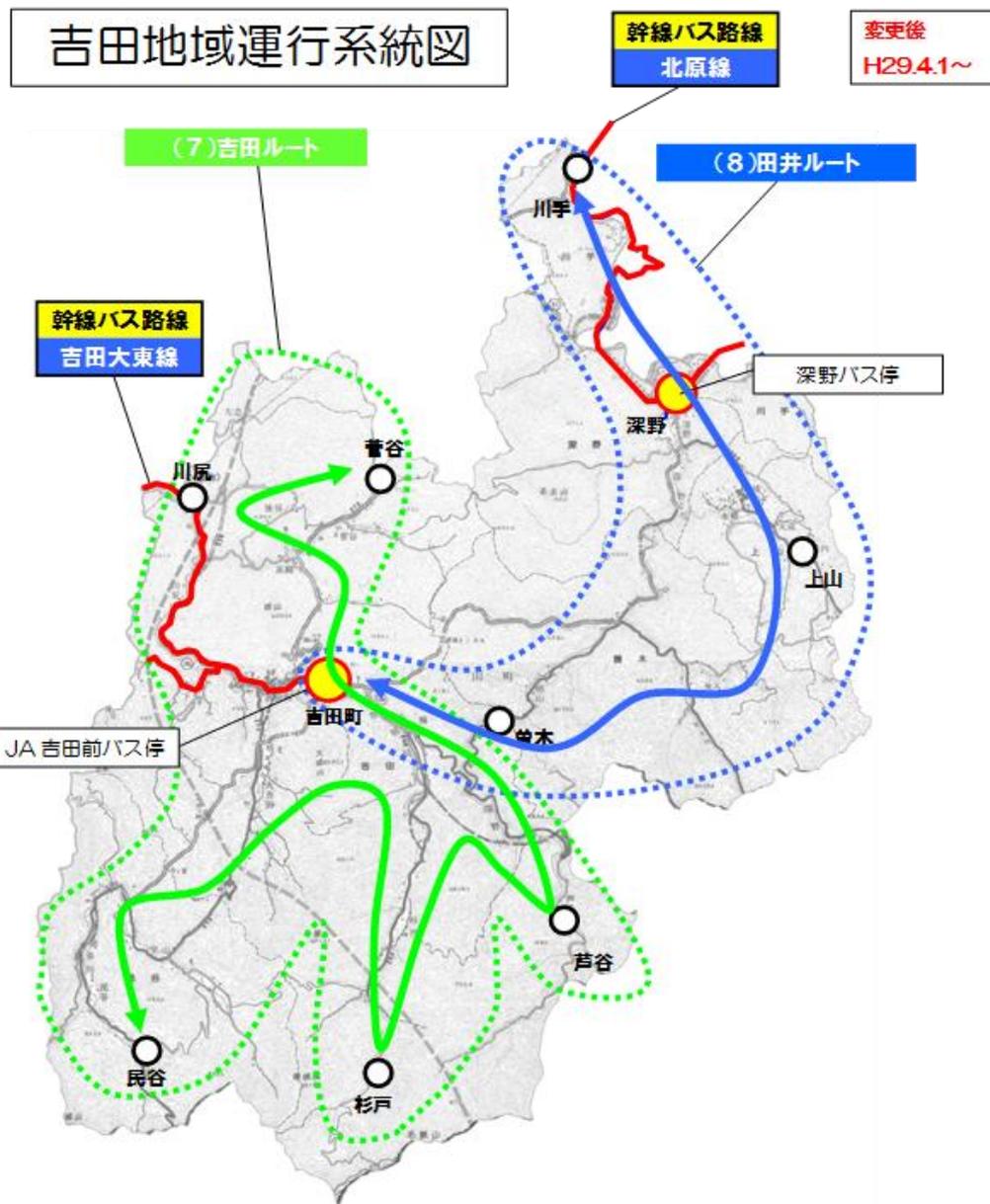
運行形態	地域名	路線名	運行事業者
雲南市民バス	広域	吉田大東線	(株)吉田ふるさと村
	大東地域	春殖線	大新東・かみしろ 特別共同企業体
		幡屋線	
		佐世線	
		阿用・久野線	
		塩田線	
	加茂地域	海潮北回り線	大新東・かみしろ 特別共同企業体
		海潮南回り線	
	木次地域	加茂北回り線	大新東・かみしろ 特別共同企業体
		加茂南回り線	
三刀屋地域	北原線	(株)共立メンテナンス	
	木次三刀屋線		
乗合タクシー	大東地域	中野線	(株)共立メンテナンス
		根波線	
		高窪・伊萱線	
		春殖・幡屋線	
		佐世線	
	加茂地区	阿用・久野線	(有)成和自動車商会
		海潮線	(有)成和自動車商会
	木次地域	塩田線	(株)かみしろ
		加茂線	(有)加茂タクシー
	三刀屋地域	日登線	(株)かみしろ
		西日登線	(株)かみしろ
		鍋山線	三葉タクシー(有)
	吉田地域	飯石・中野線	三葉タクシー(有)
高窪・伊萱線		三葉タクシー(有)	
掛合地域	吉田線	(株)吉田ふるさと村	
	田井線		
	北部線		
		南部線	掛合タクシー



運行系統図 別紙

系 統 名:吉田ルート
 運 行 形 態:不定期運行
 運行日・便数:平日運行・10便
 運 賃:300円

系 統 名:田井ルート
 運 行 形 態:不定期運行
 運行日・便数:平日運行・10便
 運 賃:300円



令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 飯南町地域公共交通会議 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



飯南町の概要

- ・平成17年1月に2町が合併
- ・人口 5,031人(平成27年度国勢調査)
- ・面積 242.84km²

交通会議の構成員

島根県 飯南町 備北交通(株) (有)赤来交通 (株)とんぼら総合開発
島根県旅客自動車協会 島根県交通運輸産業労働組合協議会
飯南町社会福祉協議会 中国運輸局島根運輸支局
島根県中山間地域研究センター 住民代表者

概 要

飯南町では雲南市・出雲市・美郷町へ接続する合計9系統のバス路線により運行しており、利用者は、主に町内、雲南市・美郷町から県立飯南高校へ通学する生徒と、飯南病院や、県立中央病院等の医療機関へ向かう高齢者となっている。
また、飯南町の中心には松江・出雲と広島を結ぶ国道54号線が縦断し、この国道を利用して松江・広島間、出雲・広島間の高速バスが運行されてきた。しかし、平成25年3月30日に中国横断自動車道尾道松江線の吉田掛合ICから三次JC・IC間が開通し、今まで国道54号線を運行していた高速バスが通過しなくなり、通院・通学・買物等に高速バスを利用していた住民のため、高速バスの代替えとして松江・出雲・三次・広島への移動手段として新たに赤名吉田線の運行を開始した。
課題として、①時間帯による乗車密度を解消するためのバス小型化の検討 ②都市部への交通連絡手段の確保・維持 が大きく上げられる。

交通会議の主な取り組み

- ・住民ニーズに配慮した町営バス等の交通再編等
- ・住民生活水準確保のための公共交通体系維持、確保

交通会議における検討

- 第1回(令和元年6月24日)
地域内フィーダー系統確保維持計画(R1)を協議
- 第2回(令和元年9月6日)
自家用有償旅客運送の更新登録申請について協議
- 第3回(令和2年2月28日)
自動運転実証実験、時刻表の一部改正について
- 第1回(令和2年6月22日)
地域内フィーダー系統確保維持計画(R2)を協議
- 第2回(令和2年7月1日)
自動運転実証実験での少量貨物有償運送の実施について
- 第3回(令和2年9月28日)
公共交通計画の策定について協議
- 第4回(令和3年2月25日)
公共交通計画の素案、時刻表の改正について協議
- 第5回(令和3年3月24日)
公共交通計画について協議
- 第1回(令和3年6月14日)
地域内フィーダー系統確保維持計画(R3)を協議
- 第2回(令和3年8月2日)
自動運転サービス社会実装、路線変更について協議

飯南町地域公共交通会議 事業の評価

定量的な目標・効果

- 赤名吉田線
(目標)・1便たりの利用者数を3.6人とする。
- 赤名線
(目標)・1便あたりの利用者数を4.8人とする。
(効果)・中高生の遠距離通学の支援
 - ・高齢者の通院・買物等の外出支援による生活水準の維持
 - ・利用者の満足向上に伴う利用実績の向上
 - ・利用者実績の向上に伴う地域公共交通の活性化
 - ・利用者実績の向上に伴う地域・住民活動の活性化

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- 赤名吉田線
 - ・コロナ禍によりイベントが中止となるも、町内利用者の増加を図るため、ダイヤ改正等の検討を行った。
- 赤名線
 - ・運行事業者と協議を行い、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。

実施した利用促進策

- 赤名吉田線
 - ・コロナ禍でイベント等が中止となり、そのため町内利用者の増加を図るためダイヤ改正等の検討を行った。
- 赤名線
 - ・ダイヤ改正時に併せて全世帯へ時刻表を配布した。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- 赤名吉田線
 - ・利用促進に取り組むことで目標達成等を期待するとされた点については、新型コロナ拡大により十分に実施できなかった。
- 赤名線
 - ・引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。

地域住民の意見の反映

- ・利用者から、広島方面へのアクセス確保について改善していくよう要望があり検討する。

飯南町地域公共交通会議 事業の評価

事業実施の適切性

- ・赤名吉田線:計画どおり実施されている。
- ・赤名線:計画どおり実施されている。

目標・効果達成状況

- ・赤名吉田線
(目標)1便あたりの利用者数は3.08人で、目標の3.4人を達成出来なかった。
 - ・全便で506人の増加であった。前年比では増加しているがコロナ禍の影響であり、低調な状態は続いている。
(効果)高速バスを利用した松江・出雲方面へのアクセス手段を確保することは出来た。
- ・赤名線
(目標)1便あたりの利用者数は6.1人で、目標の4.8人以上を達成した。
 - ・全便に対して一定数の利用者が確保できた。
(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進を図ることができた。

事業の今後の改善点

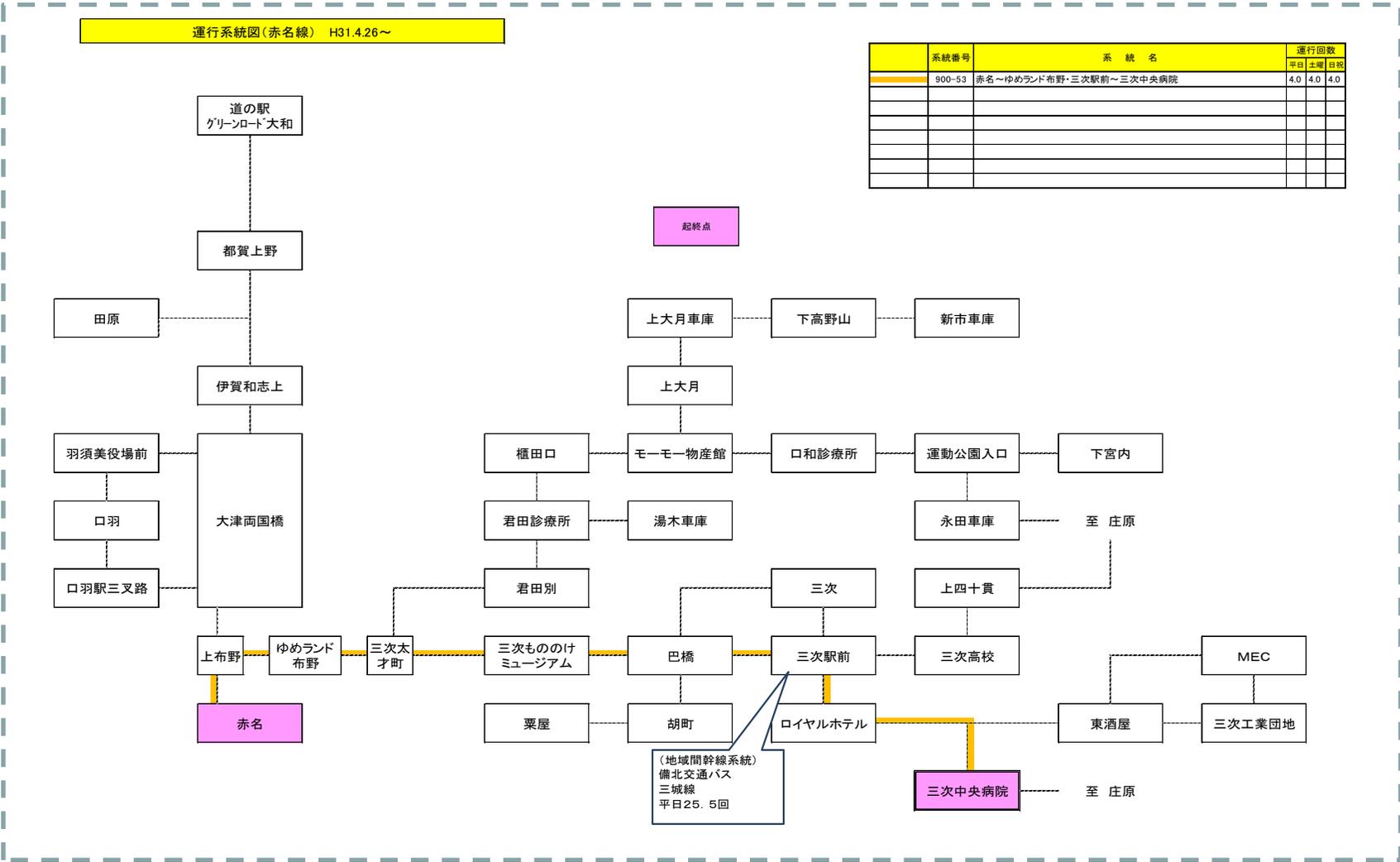
- ・赤名吉田線:利用者数の目標を達成するため、必要があれば改善を図る。
 - ・ニーズの掘り起こしを行うとともに、必要に応じてダイヤ改正等により利便性の向上を図る。
- ・赤名線:利用者数の目標を達成するため、関係自治体で協議を行い、必要があれば改善を図る。
 - ・ニーズの掘り起こし、接続路線との乗り継ぎを考慮しながらダイヤ改正の検討を行う。

運行系統図 別紙

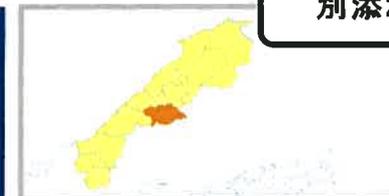
系統名	赤名線
運行形態	4条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数	1/1, 1/2を除く毎日運行 一日4便
運賃	対キロ区間制(160円～1220円)

運行系統図(赤名線) H31.4.26～

	系統番号	系統名	運行回数		
			平日	土曜	日祝
	900-53	赤名～ゆめランド布野・三次駅前～三次中央病院	4.0	4.0	4.0



令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 邑南町地域公共交通会議 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



邑南町の概要

- ・平成16年10月に2町1村が合併
- ・人口 10,163人(令和2年10月1日国勢調査)
- ・面積 419.29km²

邑南町地域公共交通会議の構成員

邑南町 島根県 中国運輸局 川本警察署 学識経験者
住民代表又は利用者代表 島根県交通運輸産業労働組合協
議会 一般社団法人島根県旅客自動車協会 石見交通(株)
備北交通(株) 邑南町タクシー組合 NPO法人はずみ振興会

概要

邑南町は平成16年旧石見町、旧瑞穂町、旧羽須美村が合併し広域な面積をもつ町となった。広域移動を中心として主要拠点間の移動を路線バスが担っている。町内には高速バスのいさびり(広浜線)、石見銀山号や4条バス路線の備北交通バスの乗継拠点を有し、自家用有償運送(市町村有償運送・市町村福祉輸送)や自家用有償運送(福祉輸送)が行われている。また、タクシー事業者が3社存在し、通院タクシー助成の対象地域もある。

平成30年4月1日にJR三江線が廃止となり、三江線代替交通となる備北交通作木線①及び作木線②、町営バス宇都井口羽線、引城区域運行、江平上ヶ畑区域運行が運行されることとなった。令和2年4月には利用状況や利用者意見を考慮し、利便性の向上を目的として、町営バスを廃止し、NPO法人はずみ振興会が行う羽須美地域区域運行を開始することで自宅前から目的地までの移動を実現することとした。

協議会の主な取り組み

- ・平成31年2月
邑南町地域公共交通網形成計画の策定
- ・平成31年4月～
邑南町地域公共交通網形成計画の事業実施

協議会における検討

令和2年度

- ・第17回(令和2年7月10日書面協議) 令和3年度～令和5年度邑南町地域内フィーダー系統確保維持計画の提出について(協議)
- ・第20回(令和3年1月12日書面協議) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について(協議)
- ・第21回(令和3年2月15日書面協議) 備北交通こども乗り放題バスについて(協議)

令和3年度

- ・第22回(令和3年6月28日書面協議) 令和3年度～令和5年度邑南町地域内フィーダー系統確保維持計画の提出について(協議)

定量的な目標・効果

●備北交通作木線①

(目標)・1便あたりの利用者7.1人以上

(効果)・沿線住民の交通弱者や高齢者の買い物や通院が可能となり、生活面の安心安全が図れる。

●備北交通作木線②

(目標)・1便あたりの利用者4.8人以上

(効果)・沿線住民の交通弱者や高齢者の買い物や通院が可能となり、生活面の安心安全が図れる。

●羽須美地域区域運行

(目標)・年間409人以上とする。(目標の根拠 週4日利用 2.2人×1.2回/日×155日)

(効果)・沿線住民の交通弱者や高齢者の買い物や通院が可能となり、生活面の安心安全が図れる。

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

・利用者ニーズに対応した運行となるようデマンド運行型の羽須美地域区域運行により他路線バスへの乗り継ぎの円滑化を図った。

実施した利用促進策

・地域に対して、通院や買物以外の利用も呼び掛けた。コロナ感染予防接種会場への送迎や集会参加等の利用があった。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

・再編実施計画見直し時に羽須美地域区域運行となった。利用者ニーズに対応した運行となるよう利用実態の把握に努めた。

地域住民の意見の反映

・日々の運行において、利用者ニーズを把握し、より良い運行となるよう参考とした。

事業実施の適切性

- ・備北交通作木線は事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。
- ・NPO法人はすみ振興会による羽須美区域運行が運行された。事業計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

目標・効果達成状況

- ・備北交通作木線①:(目標)1便あたり7.1人以上としていたが、コロナ感染症による外出自粛の影響を受け、実績5.0人となった。
(効果)沿線住民の交通弱者や高齢者の買物や通院が可能となり、生活面の安心安全が図れた。
- ・備北交通作木線②Ⓢ目標)1便あたり4.8人以上としていたが、コロナ感染症による外出自粛の影響を受け、実績3.3人となった。
(効果)沿線住民の交通弱者や高齢者の買物や通院が可能となり、生活面の安心安全が図れた。
- ・羽須美地域区域運行:(目標)年間409人以上としていたが、実績は660人となった。これまでの町営による三江線代替交通の利用数と比較すると約2倍の利用数であった。(参考)2019年度:町営307人、2020.10~2021.9:660人
(効果)デマンド化により自宅前からの乗車や他路線へのスムーズな乗り継ぎ等、利便性が向上した。

事業の今後の改善点

- ・備北交通作木線①:通院や買物、通学に利用される生活路線であり、引き続き沿線市町、関係団体と連携し、利用促進を図る。
- ・備北交通作木線②:通院や買物、通学に利用される生活路線であり、引き続き沿線市町、関係団体と連携し、利用促進を図る。
- ・羽須美地域区域運行:一定数、利用がある。引き続き利用状況を観察するとともに利用者ニーズに対応した運行を実施する。

運行系統図 別紙

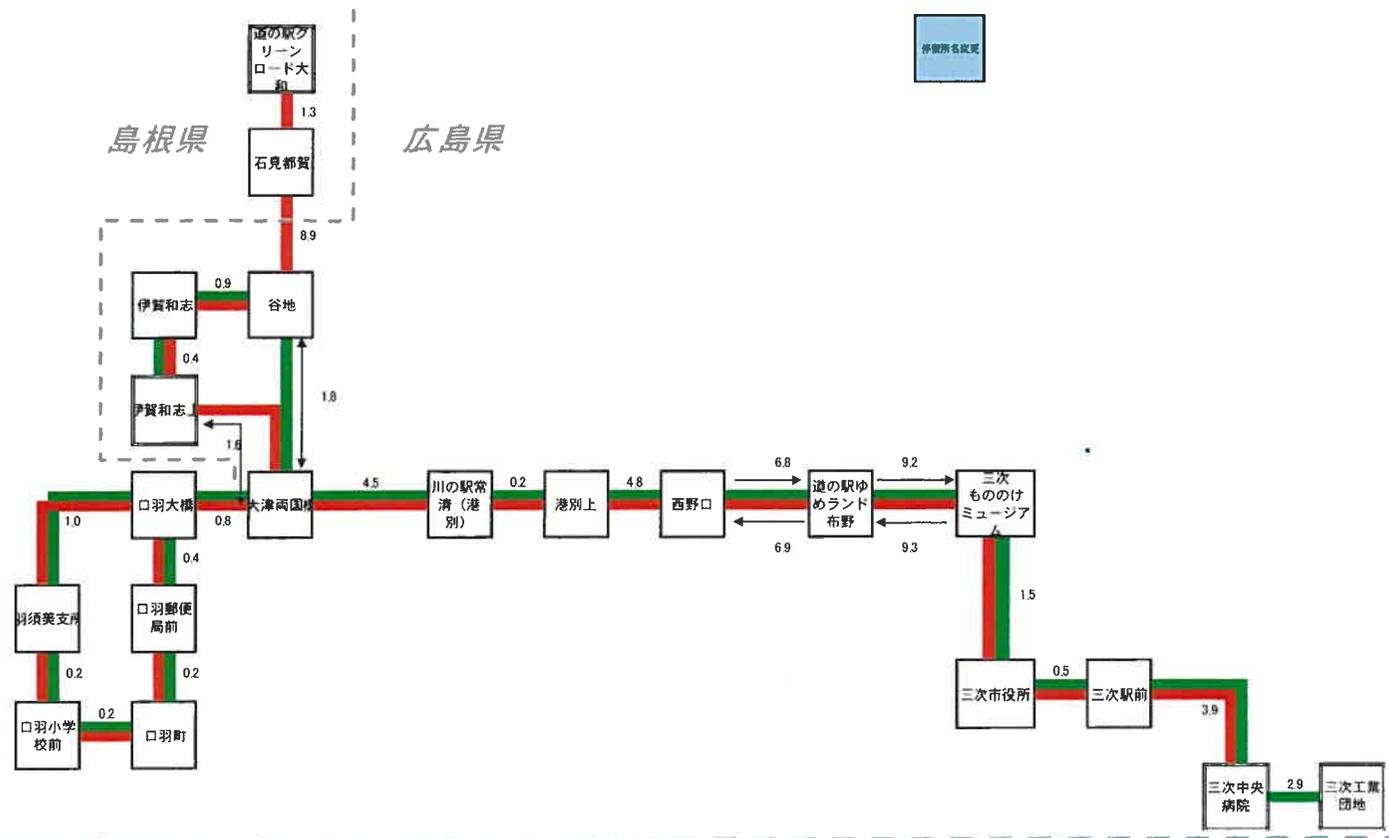
系統名 備北交通作木線
運行形態 4条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数 2系統(道の駅GR大和起点・伊賀和志上起点)あり。道の駅GR大和2便、伊賀和志上起点3便(平日は1便)※1/1、1/2を除く
運賃 1乗車200円

運行系統図 (作木線) 令和2年4月1日現在

系統番号	起点	経由地	終点	系統キロ		運行回数		
				往路	復路	平日	土曜	日祝
900-32	伊賀和志上	谷地・羽須美支所・布野・三次駅前	三次工業団地	410	412	3.0	1.0	1.0
900-42	道の駅グリーンロード大和	伊賀和志・羽須美支所・布野・三次駅前	三次中央病院	481	483	2.0	2.0	2.0

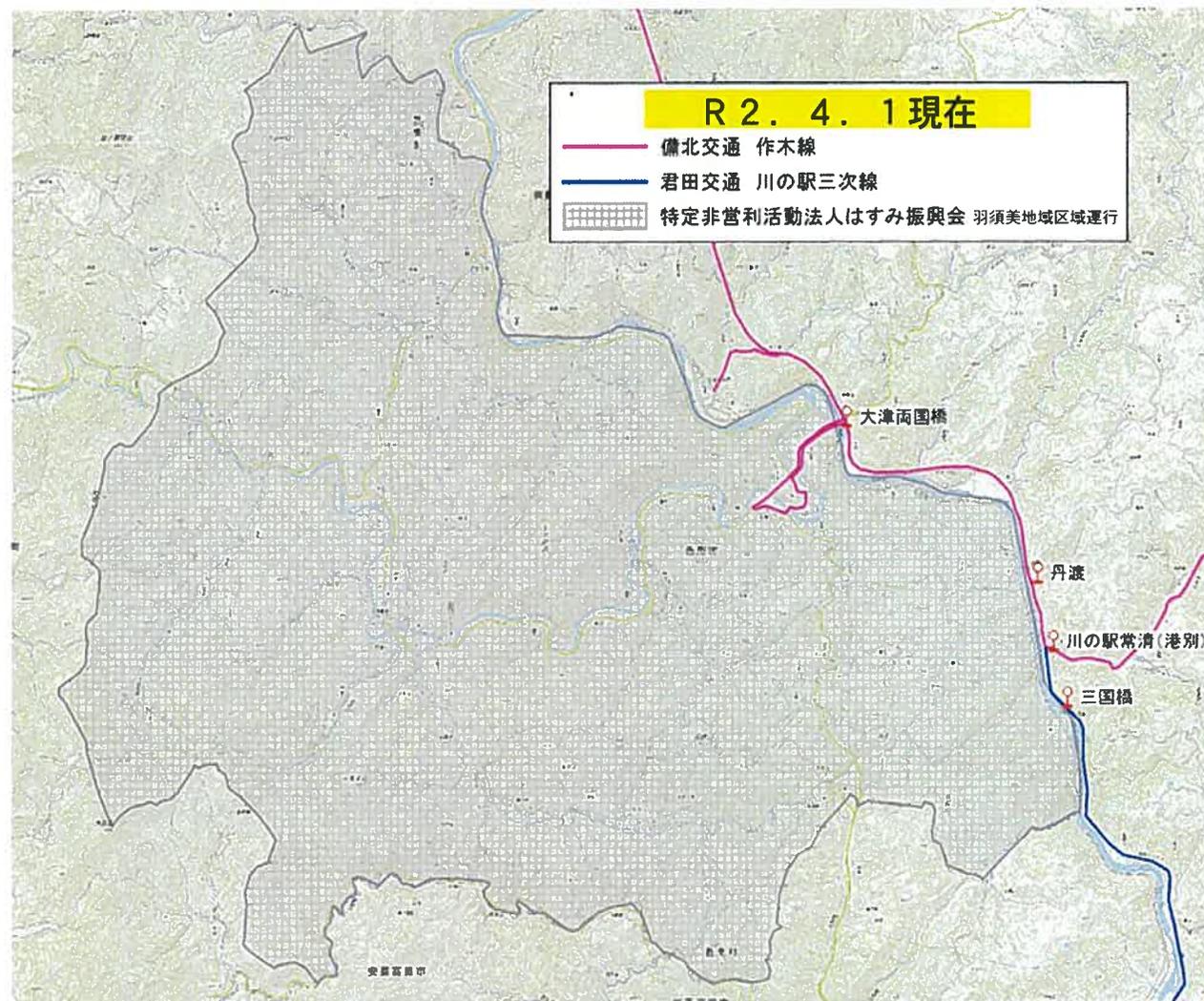
道の駅グリーンロード大和～作木別までフリー乗降区間

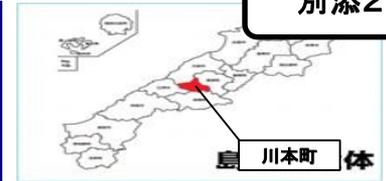
- 起終点
- 既設停留所
- 新設停留所
- 停留所名変更



運行系統図 別紙

系統名	羽須美地域区域運行
運行形態	公共交通空白地有償運送(区域デマンド運行)
運行日・便数	毎日
運賃	1乗車200～500円





令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

川本町地域公共交通会議

生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要

川本町の概要

- ・人口 3,248人(令和2年10月現在)
- ・面積 111.11km²

交通会議の構成員

川本町 島根運輸支局 島根県 石見交通(株) 大和観光(株)
 邑智自動車(有) 島根県旅客自動車協会 自治会連合会長
 島根県交通運輸産業労働組合協議会 川本町教育課
 (株)バイタルリード

概 要

川本町は、島根県のほぼ中央に位置しており、人口減少と少子高齢化が進行する典型的な過疎地域である。町内の公共交通は、スクールバスとデマンド型乗合タクシーを運行しており、運転が難しい高齢者や学生の町内移動の手段を確保している。また、近隣市町とのアクセスを確保するため、平成30年3月をもって廃止されたJR三江線に代わる新たな公共交通として路線バスの運行が行われており、双方を安定的に維持することによって交通弱者の生活交通の確保を図る。

協議会の主な取り組み

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画の策定
- ・三江線代替交通(路線バス)などの運行計画及び運賃・料金等の策定
- ・その他、地域のニーズに即した適切な公共交通運営方法等の検討

協議会における検討

- 交通会議の開催状況 2回開催
- ・第3回(R3.2.18) スクールバスにおける少量貨物輸送許可の取得について
 - ・第1回(R3.6.21) 令和4～6年度美郷町地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について 書面協議

定量的な目標・効果

- 川本美郷線(系統2 上野～石見川本) : (目標)1便あたりの利用者数を4.0人以上とする。
(効果)小中学生の通学や、買物、通院など日常生活に必要な移動手段を確保できる。
また、近隣高校への通学便の乗り換えを可能にし、部活動朝練習にも対応する。
- 川本美郷線(系統6 石見川本～浜原駅前): (目標)1便あたりの利用者数を3.0人以上とする。
(効果)高校生の通学や、買物、通院などの日常生活に必要な移動手段を確保できる。

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・バスの乗り方教室について、新生活様式に沿った乗り方マナー等を学ぶ機会を設けたいが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み中止とした。
- ・川本美郷線(系統2、6)については、通学手段の確保また乗り替えを踏まえたダイヤの見直しを行い、効果を得たものと考えている。主な利用者層である高齢者の利用の減少対策と併せ、コロナ禍の中、外出自粛や公共交通利用に対する不安感を少しでも解消し、呼び戻しを図りたい。

実施した利用促進策

- ・ダイヤ改正に伴いバスマップ、時刻表を作成し、配布を行った。
- ・島根中央高校生の通学に係るバス定期券の全額補助を実施した。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・安心してバス利用いただけるよう、車内において新型コロナウイルス感染症対策を十分に施工している。
- ・生活交通実態調査を実施、調査の結果を踏まえ学生以外の利用率向上に向けた取り組みを美郷町と連携して行っていく。

地域住民の意見の反映

- ・令和3年7月から生活交通実態調査を実施、バス利用者等へ聞き取り調査を行った。この調査の結果を踏まえ、来年度地域公共交通計画を策定予定。公共交通へ地域住民の意見を反映を図る。

事業実施の適切性

- ・川本美郷線 系統2(上野～石見川本):計画に位置づけられた事業は運行事業者、関係団体協力のもと、計画に基づき事業は適切に実施された。
- ・川本美郷線 系統6(石見川本～浜原駅前):計画に位置づけられた事業は運行事業者、関係団体協力のもと、計画に基づき事業は適切に実施された。

目標・効果達成状況

- 川本美郷線(系統2 上野～石見川本) : (目標)1便あたりの利用者数9.5人、目標4.0人以上を上回った。
(効果)小中学生の通学や、買物、通院などの日常生活に必要な移動手段を確保できた。
- 川本美郷線(系統6 石見川本～浜原駅前): (目標)1便あたりの利用者数6.5人、目標4.0人以上を上回った。
(効果)高校生の通学や、買物、通院、通勤などの日常生活に必要な移動手段を確保できた。

事業の今後の改善点

- ・川本美郷線(系統2, 6)について、目標を上回っているが、事業者と連携し引き続き新ダイヤでの運行状況を観察する。また、幼内スクールバスやデマンド型乗合タクシーおよび町外への運行便である石見交通、おおなんバスとの接続向上に向け、利用者意見の集約も継続する。

交通体系図 別紙

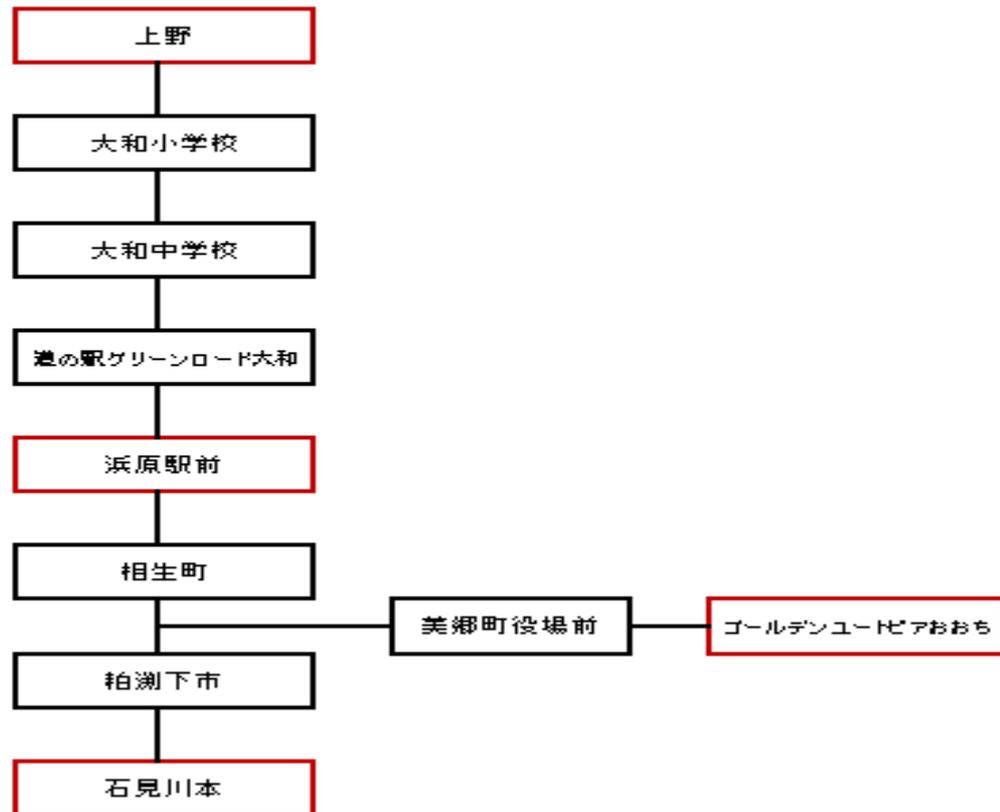


運行系統図 別紙

運行形態(4条路線、市町村運営有償運送、過疎地有償運送の別)
(乗合バス型(定期)(不定期)、区域デマンド型の別)、
運行日、1日の便数、運賃について記入願います。

系統名	系統2 川本美郷線(上野～石見川本)
運行形態	4条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数	毎日運行(平日2往復、土日祝日3往復)
運賃	対キロ区間制(160～1,320円)

大和観光川本美郷線 運行系統図 ②

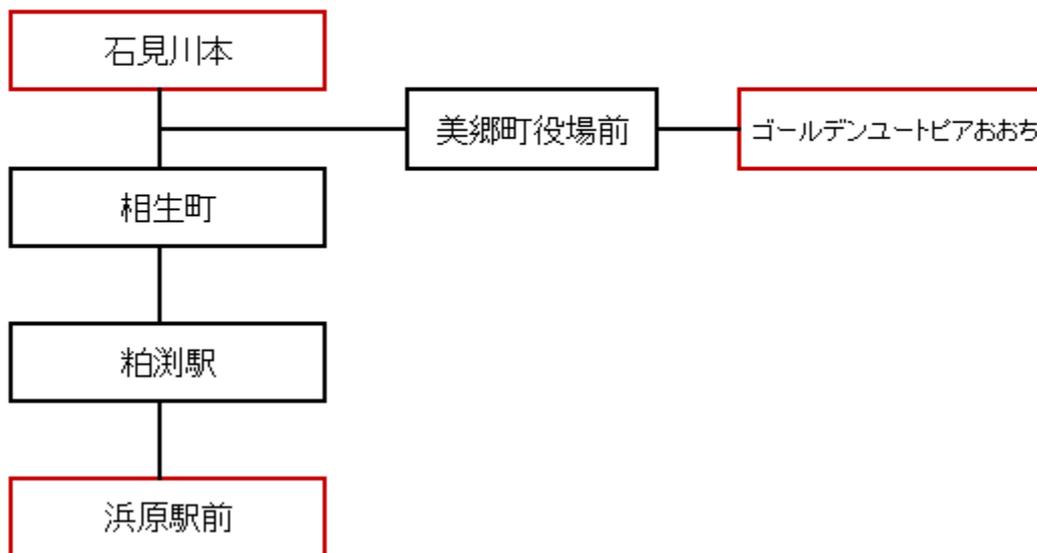


運行系統図 別紙

運行形態(4条路線、市町村運営有償運送、過疎地有償運送の別)
(乗合バス型(定期)(不定期)、区域デマンド型の別)、
運行日、1日の便数、運賃について記入願います。

系統名	系統6 川本美郷線(石見川本～浜原駅前)
運行形態	4条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数	毎日運行(平日4.0往復)
運賃	対キロ区間制(160～1,320円)

大和観光川本美郷線 運行系統図 ⑥



令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 美郷町地域公共交通会議 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



美郷町の概要

- ・平成16年10月に1町1村が合併
- ・人口 4,355人(令和2年10月現在)
- ・面積 282.92km²

交通会議の構成員

島根県 美郷町 島根運輸支局 川本警察署
美郷町教育委員会 石見交通(株) 大和観光(株) 駅>タクシー(有)
備北交通(株) おおちハイヤー 島根県旅客自動車協会 島根県交
通運輸産業労働組合協議会 美郷町連合婦人会 美郷町連合自
治協議会 美郷町老人クラブ連合会 NPO別府安心ネット (株)パイ
タルリード

概 要

美郷町は平成16年に邑智町と大和村が合併し、行政範囲が広域となった。合併後は民間バス路線の撤退により市町村有償運送によるバス路線維持、高齢者の移動手段の確保のためのデマンド型乗合タクシーの導入を行ってきたが、平成30年4月から、三江線代替交通の運行を開始している。現在の公共交通の状況は、町外への移動として民間路線バス4路線、飯南町営バス1路線が運行している。町内移動として町営バス1路線、デマンド型乗合タクシー3路線が運行している。移動のニーズである通学、通院、買物、通勤に配慮し、持続可能で利便性の高い地域公共交通ネットワークの構築を目指した事業に取り組んでいる。

協議会の主な取り組み

- ・利用者ニーズに合わせた路線バス等の再編
- ・公共交通空白地域におけるデマンドタクシー等の導入
- ・有償運送運営事業者への補助
- ・公共交通結節点における待合所などの環境整備
- ・低床バス利用導入によるバリアフリー化
- ・バス路線利用促進のための運賃助成
- ・ダイヤ改正、運行方法の検討
- ・持続可能な地域交通実現に向けた実証実験等の実施

協議会における検討

協議会の開催状況 4回開催

- ・第4回(R2.12.15)地域公共交通確保維持事業 事業評価他
書面協議 合意
- ・第5回(R3.2.12)子ども乗り放題パスの販売について
書面協議 合意
- ・第1回(R3.6.23)令和4~6年度美郷町地域内フィーダー系統確
保維持計画(案)について 書面協議 合意
- ・第2回(R3.11.9)美郷町における乗合区域運行(定額制乗合タク
シー)の実証運行について

美郷町地域公共交通会議 事業の評価

定量的な目標・効果

- 川本美郷線(系統2 上野～石見川本) : (目標)1便あたりの利用者数を4.0人以上とする。
(効果)小中学生の通学や、買物、通院など日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保できる。
また、近隣高校への通学便の乗り換えを可能にし、部活動朝練習にも対応する。
- 川本美郷線(系統3 上野～GUおおち) : (目標)1便あたりの利用者数を3.0人以上とする。
(効果)小中高校生の通学や、買物、通院など日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保できる。
- 川本美郷線(系統6 石見川本～浜原駅前) : (目標)1便あたりの利用者数を3.0人以上とする。
(効果)高校生の通学や、買物、通院などの日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保できる。
- 作木線(系統9 GR大和～三次中央病院) : (目標)あたりの利用者数を4.8人以上とする。
(効果)三次市中心部への移動支援, 通勤・通学・通院, 買い物等の広域的な移動手段を確保できる。

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

・バスの乗り方教室について、新生活様式に沿った乗り方マナー等を学ぶ機会を設けたいが、新型コロナ感染拡大の状況を鑑み中止とした。
・川本美郷線(系統2, 3, 6)については、通学手段の確保また乗り替えを踏まえたダイヤの見直しを行い、効果を得たものと考えている。主な利用者層である高齢者の利用の減少対策と併せ、コロナ禍の中、外出自粛や公共交通利用に対する不安感を少しでも解消し、呼び戻しを図りたい。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

・安心してバス利用いただけるよう、車内において新型コロナウイルス感染症対策を十分に施工し、また通学便の分散化を継続して実施している。
・学生以外の利用者確保については、町内移動が200円となるよう助成券の配布をアナウンスしており、高齢者を中心として助成券の交付申請が常時あるため、効果を得ている。

実施した利用促進策

- ・ダイヤ改正に伴い令和2年3月にユニバーサルデザインを用いたバスブックを町内全世帯へ配布。
- ・バス路線(町内区間)を、200円で乗車できるよう運賃助成。
- ・デマンド型乗合タクシーについては個別に利用者に状況を聞き取り、個別に問合せのある未利用者については時刻表やチラシを郵送し、利用啓発に努めた。
- ・町独自で実施する免許返納者支援事業と併せ、バス・タクシーの利用啓発に努めた。

地域住民の意見の反映

・令和2年3月末をもって明塚線(旧系統8, 区域運行)について、タクシー利用助成への切り替えを実施しているが、その後も地域からはドア・ツー・ドア運行の要望をいただいている。令和3年12月から定額乗合タクシーの実証実験を実施しており、関心も高い。この事業における地域への説明時にもこれからの公共交通について、いずれ運転できなくなる将来も踏まえ、より利用しやすい身近な地域交通を求められていると実感している。

美郷町地域公共交通会議 事業の評価

事業実施の適切性

全ての路線・区域において、運行事業者、関係団体協力のもと、計画に基づき事業は適切に実施されている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度実施予定だった高齢者、学生向けのモビリティマネジメント事業は中止とした。また観光目的の利用者開拓についても計画期間内の具体的な施策実施は見送られた。

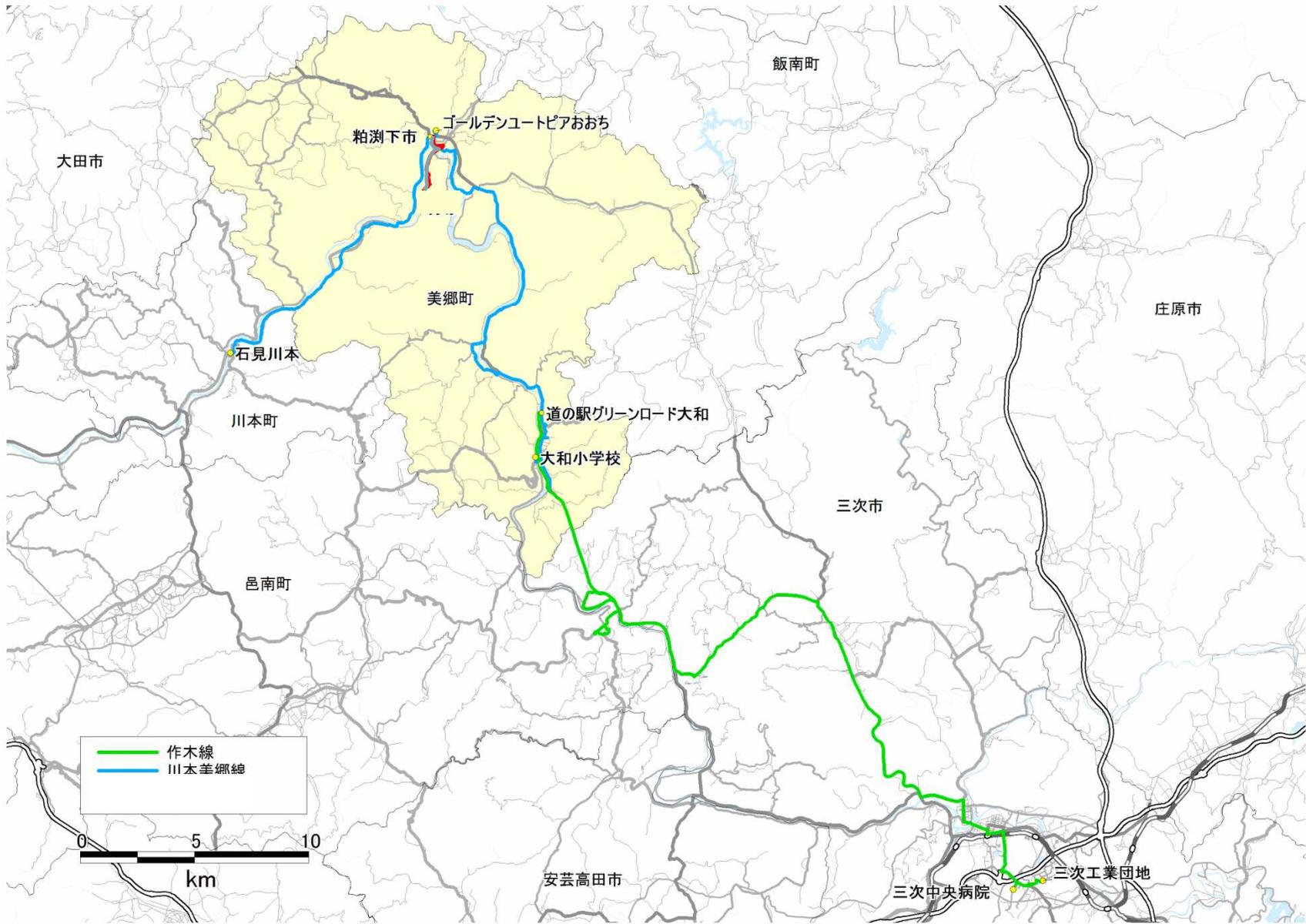
目標・効果達成状況

- 川本美郷線(系統2 上野～石見川本) : (目標)1便あたりの利用者数9.5人、目標4.0人以上を上回った。
(効果)小中学生の通学や、買物、通院などの日常生活に必要な移動手段を確保できた。
- 川本美郷線(系統3 上野～GUおおち) : (目標)1便あたりの利用者数6.8人、目標3.0人以上を上回った。
(効果)小中学生、高校生の通学や、買物、通院、通勤などの日常生活に必要な移動手段を確保できた。
- 川本美郷線(系統6 石見川本～浜原駅前): (目標)1便あたりの利用者数6.5人、目標4.0人以上を上回った。
(効果)高校生の通学や、買物、通院、通勤などの日常生活に必要な移動手段を確保できた。
- 作木線(系統9 GR大和～三次中央病院) : (目標)1便あたりの利用者数3.3人、目標4.8人以上を下回った。
(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進を図ることができた。

事業の今後の改善点

- ・川本美郷線(系統2, 3, 6)について、目標を上回っているが、事業者と連携し引き続き新ダイヤでの運行状況を観察する。また、町外への運行便である石見交通、備北交通との接続向上に向け、利用者意見の集約も継続する。
- ・作木線(系統9)については新型コロナウイルス感染症の影響から、利用が減少している。運行形態については、通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから維持しつつも、利便性向上に向けたダイヤ改正等を検討する。

交通体系図 別紙

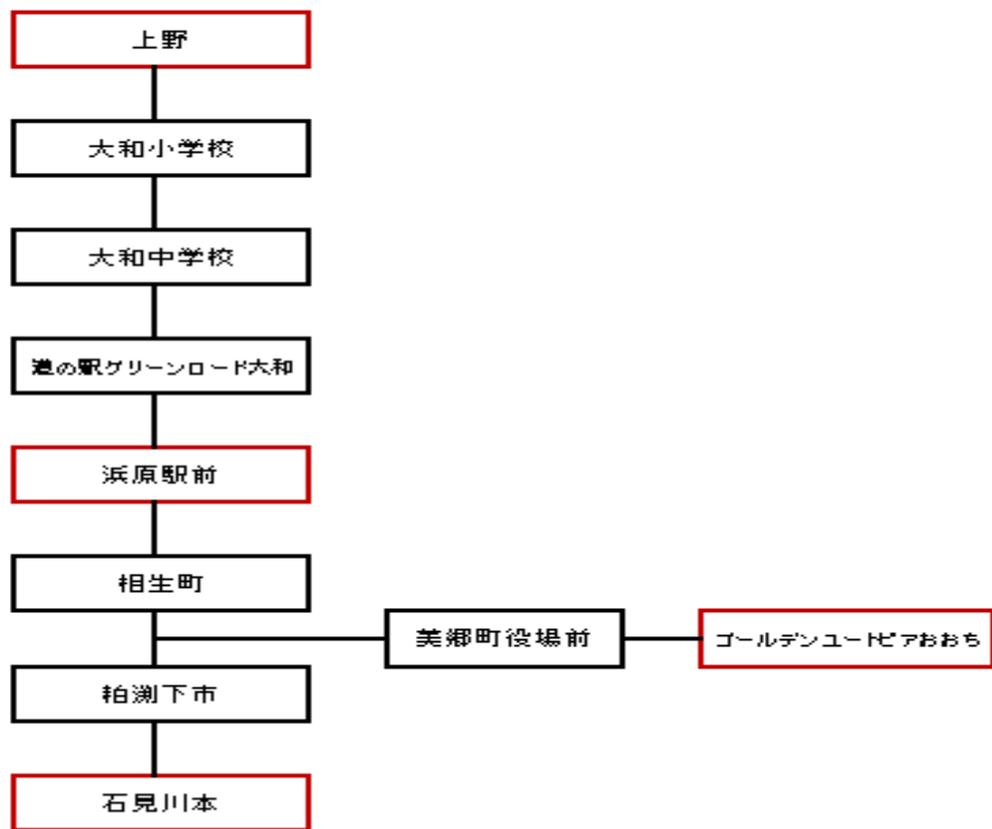


運行系統図 別紙

運行形態(4条路線、市町村運営有償運送、過疎地有償運送の別)
(乗合バス型(定期)(不定期)、区域デマンド型の別)、
運行日、1日の便数、運賃について記入願います。

系統名	系統2 川本美郷線(上野～石見川本)
運行形態	4条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数	毎日運行(平日2往復、土日祝日3往復)
運賃	対キロ区間制(160～1,320円)

大和観光川本美郷線 運行系統図 ②

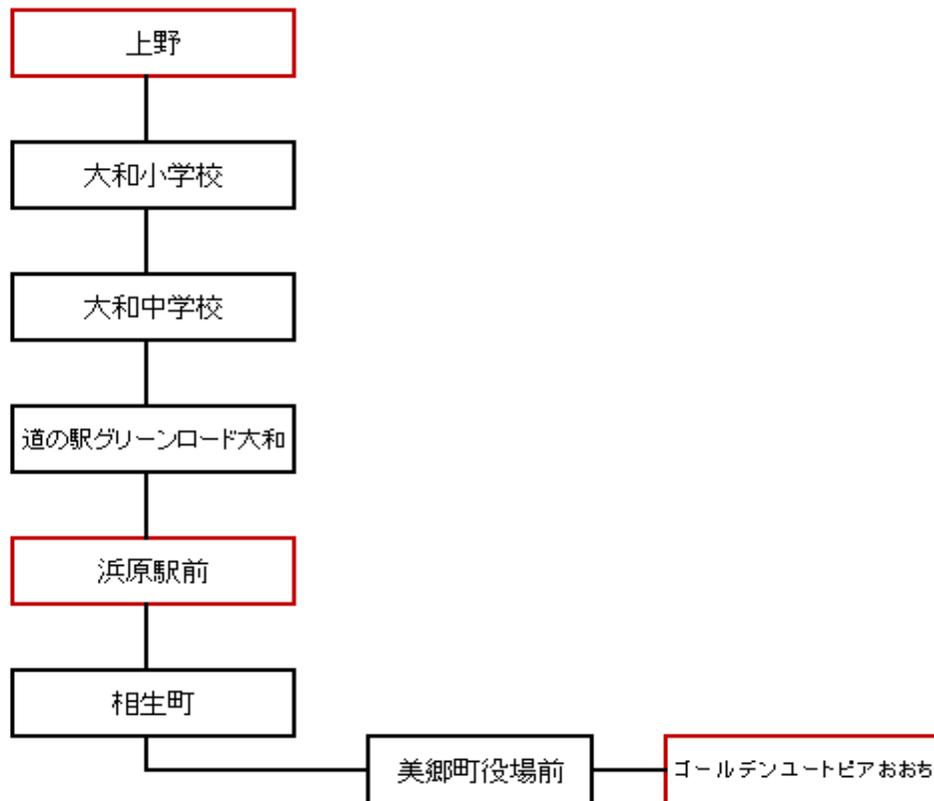


運行系統図 別紙

運行形態(4条路線、市町村運営有償運送、過疎地有償運送の別)
(乗合バス型(定期)(不定期)、区域デマンド型の別)、
運行日、1日の便数、運賃について記入願います。

系統名	系統3 川本美郷線(上野~ゴールデンユートピアおおち)
運行形態	4条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数	毎日運行(平日6.5往復)
運賃	対キロ区間制(160~1,320円)

大和観光川本美郷線 運行系統図 ③

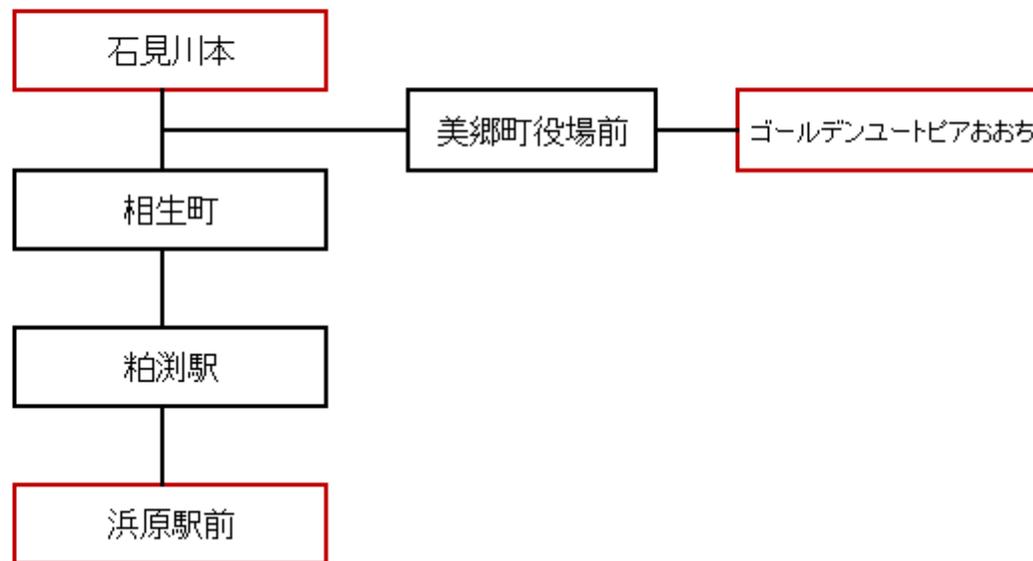


運行系統図 別紙

運行形態(4条路線、市町村運営有償運送、過疎地有償運送の別)
(乗合バス型(定期)(不定期)、区域デマンド型の別)、
運行日、1日の便数、運賃について記入願います。

系統名	系統6 川本美郷線(石見川本～浜原駅前)
運行形態	4条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数	毎日運行(平日4.0往復)
運賃	対キロ区間制(160～1,320円)

大和観光川本美郷線 運行系統図 ⑥



運行系統図 別紙

系統名 作木線
運行形態 4条路線・乗合バス型(定期)
運行日・便数 2系統(道の駅GR大和起点・伊賀和志上起点)あり。道の駅GR大和起点2便、伊賀和志上起点3便(月～金1便)※1/1、1/2除く
運賃 対キ口区間制(170～980円)

運行系統図 (作木線) 平成31年4月26日現在

系統番号	起点	経由地	終点	系統キ口	運行回数		
					平日	土曜	日祝
900-32	伊賀和志上	谷地・羽須美支所・布野・三次駅前	三次工業団地	平日 41.0 土曜 41.2	3.0	1.0	1.0
900-42	道の駅グリーンロード大和	伊賀和志・羽須美支所・布野・三次駅前	三次中央病院	平日 48.1 土曜 48.3	2.0	2.0	2.0

※ 道の駅グリーンロード大和～作木別までフリー乗降区間

